

有千歲と云くは説を授とせし阿久言ハ今
に嵯峨の地よりて大臺ハ本地仏よりて大
龍會席の及端よりて説説を集て考傳れた
仏法ハ附會一我師の神託ハ齟齬一傳れ
を逐一より解志りて一なる多日を按て
るに古事記の説親世より天照大神と現し
天照大神又下界にあてて伯耆國姫と現し
て阿久言ハ嵯峨一あふと二世を立てて説
かり中もたも右のあふと二世を立てて説
なれを説き又明傳に及しと神代書を

見ると昔の令尊を妹玉依姫を妃とて
日男ハ生をあらた女子を生をあらすに
又伯耆國姫といふ令をたのふに皇女の
二字を后妃と傳り伯耆國姫ハ玉依姫の異
名とも見ゆ（さや火く出見する海女の事）
を漢津彥鴨矢尊と歎よふ事をあらすもあ
まハ玉依姫ハ海神の女姫なれと伯耆國姫
とも稱せしやたまれハ三山雅集より傳
皇孫の説ハ震替ハ玉依姫と云（傳りも
徳神親徳祭文の古事にも芳合一傳り事